



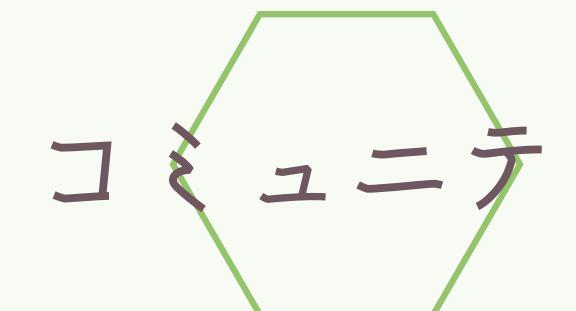
山梨に市民コミュニティ財団を・・・

# 市民コミュニティ財団 設立のためのアクション

<https://don.dd-yamanashi.org/>



財団設立拠出金を市民から集める。市民が寄付等を通じて、資金循環に参画できる。



特定地域を事業対象として捉え、コミュニティ成長・開発のリーダーシップを發揮する。



公益税制を活用して、寄付等を募り、資金仲介する仕組み、地域の資産形成を行う。

# コミュニティ財団とは

## —地域の新たな受け皿の一つに—

### 個人財団（プライベート財団）



個人で寄付して財団を作る

### 企業財団



会社で寄付して財団を作る

### 外郭団体



行政が出捐して財団を作る

### コミュニティ財団（地域財団）



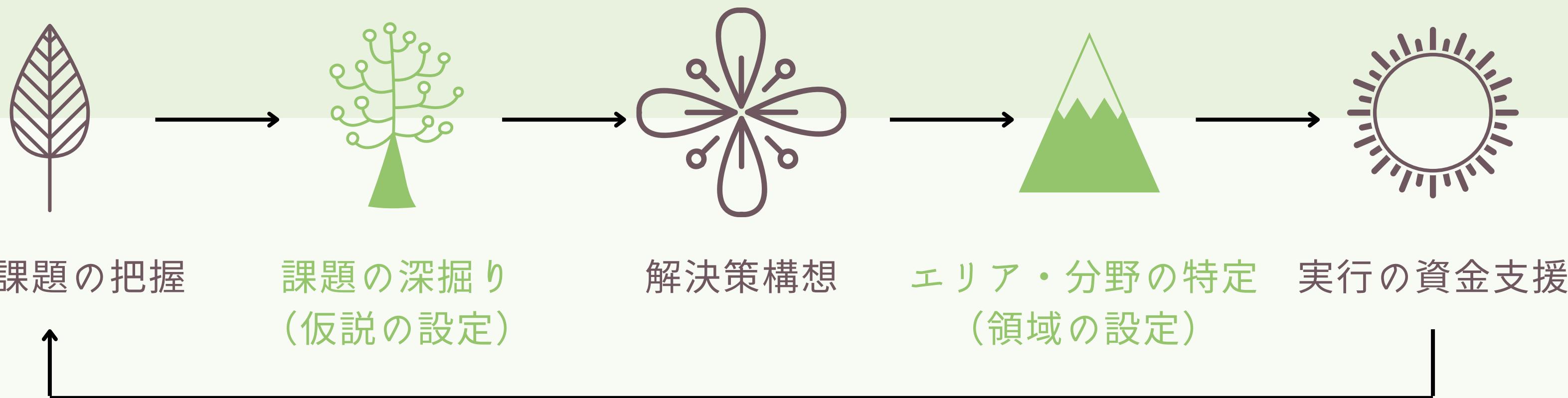
地域の様々な人が寄付して財団を作る

## 地域のための民間の資源循環と活用のための機能

—自分たちの手で自分たちのまちをよくするための仕組み—

# コミュニティ成長の装置

## コミュニティ財団の役割



市民目線での地域戦略を実現  
－財団とPO（プログラム・オフィサー）の存在意義－

# コミュニティ財団の可能性

## —無いと困る山梨の地域事情と近隣環境—

### 緊急時の民間資金

地震や大雨などの災害時に、県内各地の災害時対応の選択肢の一つだけではなく、発災直後と復興時期の隙間を埋めるような支援を担う。

### 域外への資金流出の抑止（域内循環）

相続時における資産流出率が山梨は15%以上20%未満の地域になり、「遺贈寄付」などの受け皿が無いことで、資金が県外流出している。

### 多様な資金の地域での活用

寄付以外にも休眠預金活用やふるさと納税、クラウドファンディングなど、市民の意思が地域を支える仕組みなど、多様な地域活用を実現。

### コレクティブインパクトの促進

多様な人に繋がり続けることや、適度に必要な声掛け、継続が大変なアイドリング部分を担うことで、市民が必要な時に利用できる。

空白地域であることの実害

成長仕組みを作っていく

# 休眠預金 活用事業

後発の強みを生かして

---



現在、休眠預金活用事業の実行団体として、全国  
コミュニティ財団協会の伴奏支援を受けながら、  
2025年度中の財団設立を目指しています。

山梨県の現状として、自然発生的に市民コミュニ  
ティ財団が生まれないという事実を正面から受け  
止め、足りない部分は県外からの力を頼らせても  
らいながら、子どもたちに何を残すことができる  
のかを日々考え続けています。

また財団は設立がゴールではありません。設立後  
に始まる助成プログラム実施など、継続的な寄付  
集めや、多様な連携の維持・向上が不可欠です。